

平成26年度 学校保健概要調査

1 発育の状況

年齢別身長・体重・座高の平均値（全国と岡山県との比較）

○：全国平均より上 □：全国平均と同じ 無印：全国平均より下

区分	身長 cm		体重 kg		座高 cm			
	全国	県	全国	県	全国	県		
男	幼稚園	5歳	110.3	109.7	18.9	18.5	61.8	61.4
	小学校	6歳	116.5	116.2	21.3	21.1	64.8	64.6
		7歳	122.4	122.4	24.0	23.6	67.6	67.4
		8歳	128.0	127.6	27.0	26.6	70.2	69.9
		9歳	133.6	132.8	30.4	29.7	72.6	72.3
		10歳	138.9	137.9	34.0	33.1	74.9	74.2
		11歳	145.1	144.9	38.4	37.5	77.6	77.5
	中学校	12歳	152.5	152.1	44.0	43.0	81.3	81.3
		13歳	159.7	159.5	48.8	48.2	84.9	85.2
		14歳	165.1	164.8	53.9	54.5	88.1	88.1
		高等学校	15歳	168.3	167.3	58.9	59.5	90.4
16歳			169.8	168.7	60.7	59.9	91.4	91.3
女	幼稚園	5歳	109.5	108.7	18.5	18.1	61.3	61.2
	小学校	6歳	115.5	115.4	20.8	20.6	64.4	64.3
		7歳	121.5	121.3	23.4	23.3	67.2	67.2
		8歳	127.4	127.1	26.4	26.5	69.9	69.7
		9歳	133.4	133.2	29.8	29.7	72.6	72.6
		10歳	140.1	139.8	34.0	34.0	75.8	75.8
		11歳	146.8	145.8	39.0	38.2	79.3	78.8
	中学校	12歳	151.8	151.6	43.6	43.5	82.1	82.0
		13歳	154.8	154.5	47.2	47.3	83.8	83.7
		14歳	156.4	155.9	50.0	49.9	84.9	84.5
		高等学校	15歳	157.0	156.3	51.4	51.0	85.4
16歳			157.6	157.3	52.4	52.8	85.7	85.8
		17歳	157.9	157.1	52.9	52.7	85.9	85.7

(注) 年齢は、平成26年4月1日現在の満年齢である。

○全国と比較すると、男子の13歳の体重・座高、14歳の体重、17歳の座高において全国平均を上回っている。女子においては8歳の体重、13歳の体重、16歳の体重と座高で全国平均を上回っている。昨年度に比べ、全国平均を上回っている年齢が多い。

上記の岡山県数値は、平成26年度学校保健統計（学校保健統計調査報告書：文部科学省の抽出調査）によるものである。

○ 平成26年度学校保健統計対象校

（学校教育法第1条に定める幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び中等教育学校のうち文部科学大臣が指定）

岡山県内学校(園) 1,005校(園)中 164校(園)抽出

岡山県在学者 223,753人中 発育状態調査 13,629人 (6.1%)抽出

○ 調査期間

平成26年4月から6月

2 学校種別疾病異常の状況

(注) 被患率とは、定期健康診断において医師等により、疾病異常と診断された者の割合

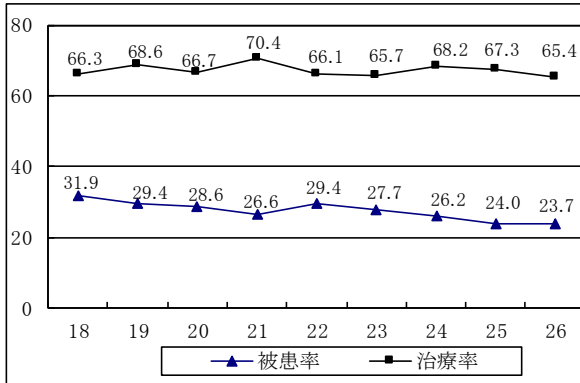
被患率		幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
学校種			%		%		%		%
20%以上30%未満		むし歯	23.7	むし歯	26.4	裸眼視力1.0未満	22.9	矯正視力1.0未満	23.7
10%以上20%未満		裸眼視力1.0未満	15.2	裸眼視力1.0未満	19.9	矯正視力1.0未満	19.7	むし歯	19.9
		鼻咽喉頭疾患	11.8	鼻咽喉頭疾患	17.8	むし歯	17.0	裸眼視力1.0未満	18.1
						鼻咽喉頭疾患	14.1	鼻咽喉頭疾患	10.9
1%以上10%未満		8~10%						肥満傾向	8.8
		6~8%	耳疾患 7.7	ぜん息 7.5 肥満傾向 6.8 耳疾患 6.6 その他の歯の疾患及び 口腔の疾病異常 6.4 矯正視力1.0未満 6.3 その他の眼疾患 6.2	7.5 6.8 6.6 6.4 6.3 6.2	肥満傾向 7.8			
		4~6%	その他の眼疾患 4.9			ぜん息 5.2 その他の眼疾患 5.2 歯周疾患(Gのみ) 4.9 耳疾患 4.9	5.2 5.2 4.9 4.9	その他の眼疾患 5.6 ぜん息 5.0 歯周疾患(Gのみ) 4.4	5.6 5.0 4.4
		2~4%	ぜん息 2.8 皮膚疾患 2.3 歯周疾患(Gのみ) 2.2	歯列・咬合・顎関節の 異常 2.6 皮膚疾患 2.3 歯周疾患(Gのみ) 2.2	2.6 2.3 2.2	その他の歯の疾患及 び口腔の疾病異常 3.5 瘦身傾向 3.0 歯列・咬合・顎関節の 異常 2.7	3.5 3.0 2.7	瘦身傾向 2.7 歯列・咬合・顎関節 の異常 2.4 耳疾患 2.1	2.7 2.4 2.1
		1~2%	皮膚疾患 1.8 聴力異常 1.0	心臓の疾患 1.5 瘦身傾向 1.5 聴力異常 1.4	1.5 1.5 1.4	皮膚疾患 1.8 心臓の疾患 1.4 腎臓疾患 1.0	1.8 1.4 1.0	心臓の疾患 1.4 皮膚疾患 1.3	1.4 1.3
1%未満		0.5~1%	その他の歯の疾患及 び口腔の疾病異常 0.9 矯正視力1.0未満 0.8 肥満傾向 0.7 心臓の疾患 0.5	せき柱側わん 0.5 腎臓疾患 0.5	0.5 0.5	聴力異常 0.9 せき柱側わん 0.6	0.9 0.6	聴力異常 0.9 その他の歯の疾患及 び口腔の疾病異常 0.7 腎臓疾患 0.7	0.9 0.7 0.7
		0.1~0.5%	感染性眼疾患 0.3 歯周疾患(Gのみ) 0.2 瘦身傾向 0.1 せき柱側わん 0.1 腎臓疾患 0.1	感染性眼疾患 0.1 胸郭異常 0.1 貧血 0.1	0.1 0.1 0.1	貧血 0.1 感染性眼疾患 0.1 胸郭異常 0.1	0.1 0.1 0.1	貧血 0.2 せき柱側わん 0.2 胸郭異常 0.1	0.2 0.2 0.1
0.1%未満		ぎょう虫 貧血 胸郭異常 栄養不良		栄養不良 ぎょう虫		栄養不良		栄養不良 感染性眼疾患	

○疾病異常を被患率別にみると、幼稚園、小学校においては「むし歯」が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満」「鼻咽喉頭疾患」の順となっている。中学校においては、「裸眼視力1.0未満」、高等学校においては、「矯正視力1.0未満」がそれぞれ最も高く、次いで中学校においては「むし歯」「矯正視力1.0未満」、高等学校においては「むし歯」「裸眼視力1.0未満」がそれぞれ高くなっている。

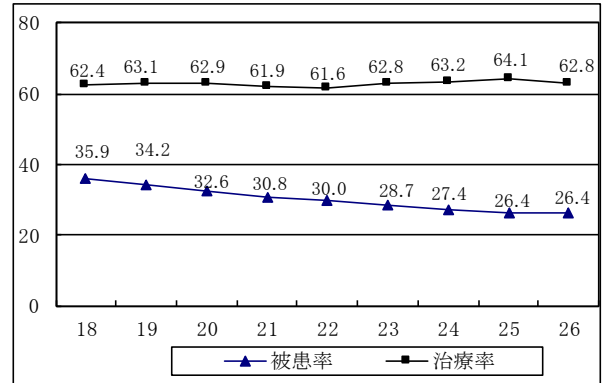
3 むし歯の状況

①治療していないむし歯（乳歯・永久歯）のある者の割合及び治療率の推移

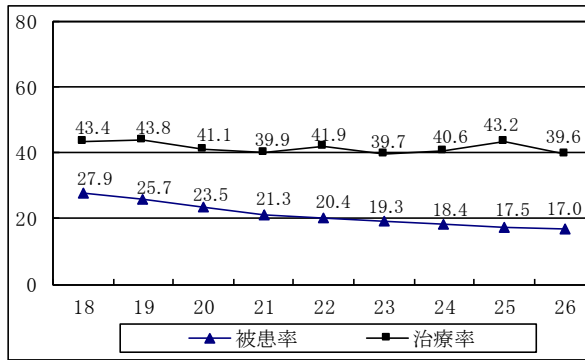
(%) 幼稚園



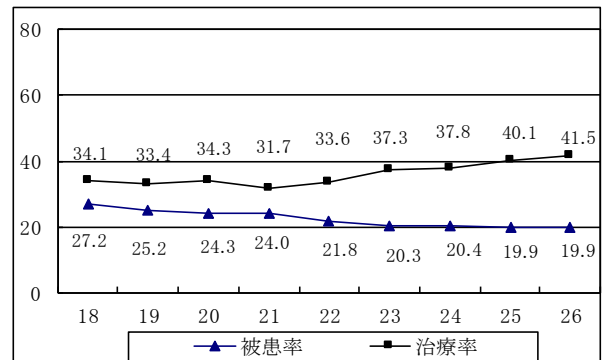
(%) 小学校



(%) 中学校



(%) 高等学校

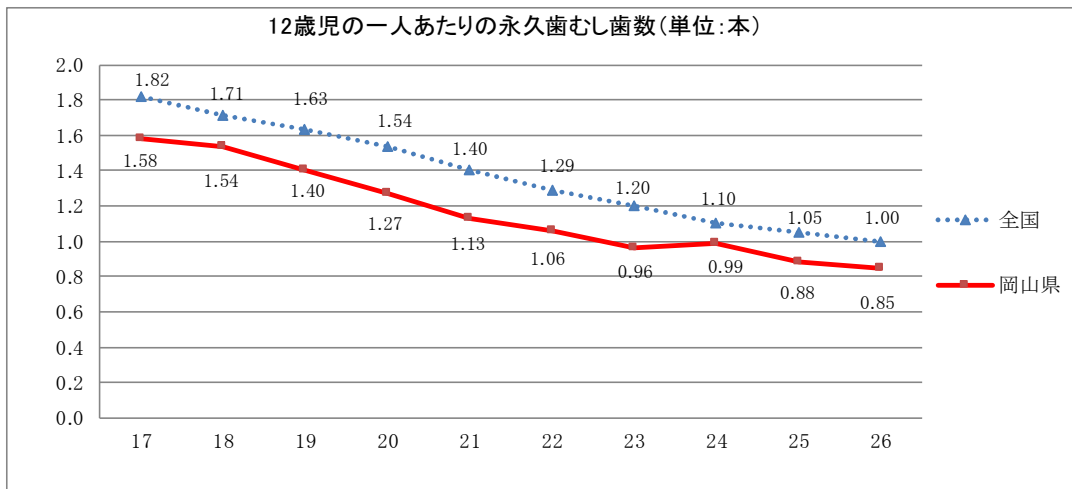


(注) 被患率とは、定期の歯科検診時における未処置歯保有者の割合。

(注) 治療率とは、定期の歯科検診後、むし歯の治療勧告を受けた者が、その年度の12月1日までに治療を受けた割合。

②12歳児（中学1年生）の一人あたりの永久歯むし歯数（DMF歯数）の推移

※DMFとは・・・
 D（未処置歯）
 M（むし歯による喪失歯）
 F（処置歯）

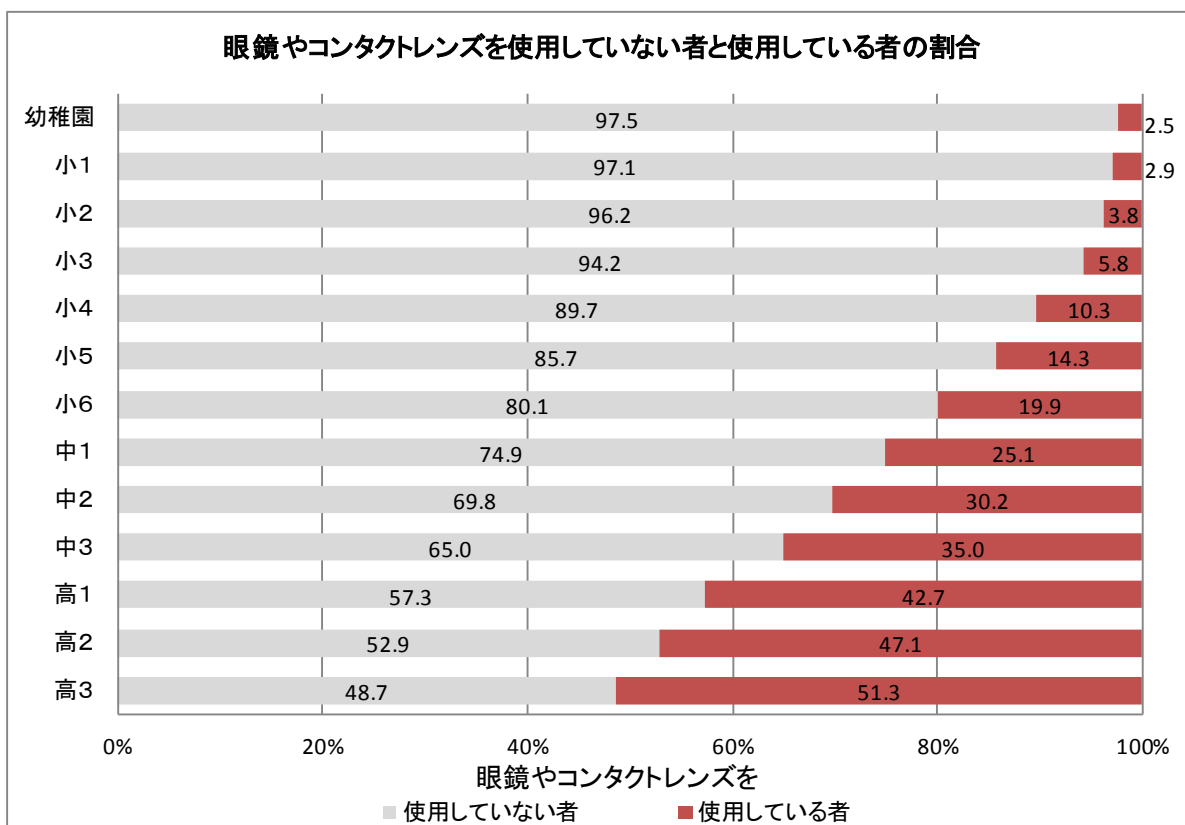


(注) 全国の数値は文部科学省の学校保健統計（学校保健統計調査報告書）の結果から

○むし歯の被患率は、すべての校種において低下傾向であるが、むし歯の治療率は高等学校を除き低下した。12歳児の永久歯むし歯数(DMF歯数)は、昨年に引き続き0.9本を下回った。

4 視力の状況

(眼鏡やコンタクトレンズを使用していない者と使用している者の割合)

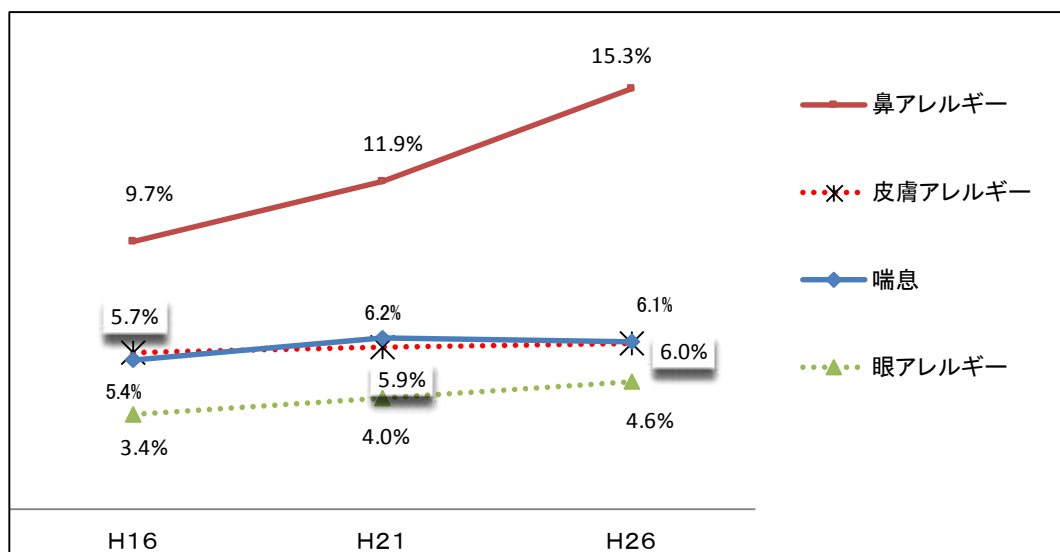


○学年が上がるにつれ、眼鏡またはコンタクトレンズを使用する児童生徒が増加する。

○高等学校3年生になると、半数以上の生徒が、眼鏡又はコンタクトレンズを使用している。

5 アレルギー疾患・喘息の状況

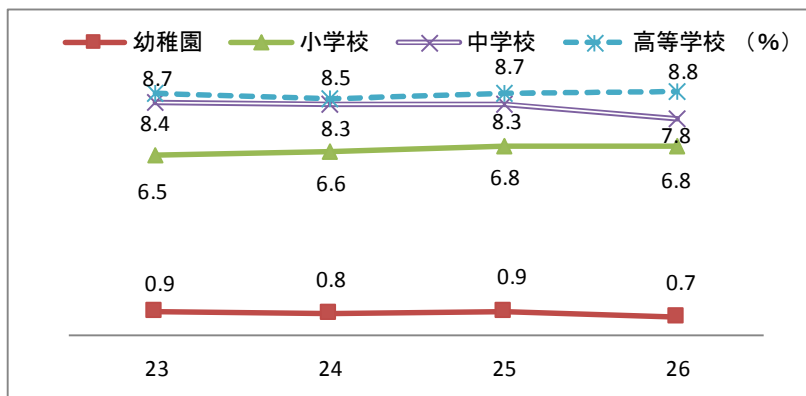
次の数値は、校医の診断及び保護者の保健調査票等から、学校が把握したアレルギー疾患を持つ児童生徒の割合である。



○10年前と比較すると、アレルギー疾患を持つ児童生徒が増加している。
特に鼻アレルギーの増加は著しい。

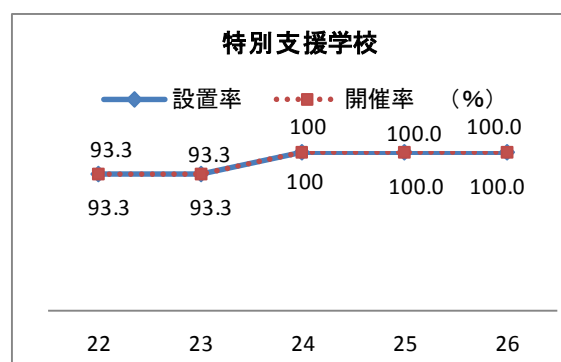
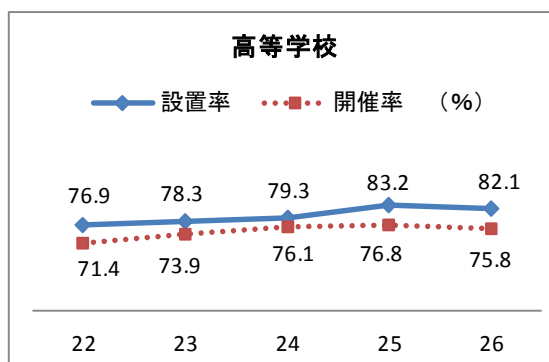
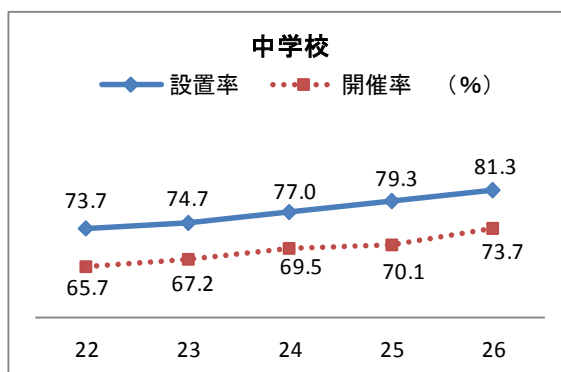
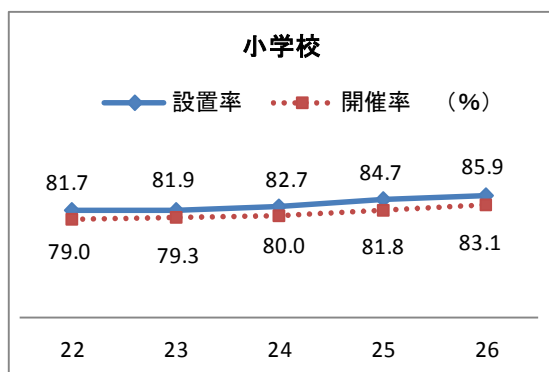
6 肥満の状況

肥満については、「性別・年齢別・身長別標準体重」から肥満度を算出し、肥満度20%以上の者を肥満傾向児としている。



○中学校においては、肥満の発現率が減少傾向であるが、小学校・高等学校は前年と同水準で推移している。

7 学校保健委員会の設置・開催状況



○高等学校を除くすべての学校種別において、設置率と開催率が増加傾向にある。特別支援学校においては、設置率・開催率ともに100%である。

◇学校保健委員会とは

校長・養護教諭等教職員、保護者代表・生徒代表・学校医等地域関係者等を委員とし、各学校における健康に関する課題を協議し、子どもたちの健康づくりを推進するための組織である。主に保健主事等が運営にあたる。

第6次岡山県保健医療計画では、学校保健委員会の設置率を平成27年度までに、小学校90%、中学校・高等学校85%とすることを目標としている。